

♥ FOR KUMAMOTO PROJECT



小山 本震の被災状況を見て、何かしなきゃいけないと思いました。自分には何ができるんだろうと。それで、1つはやっぱり「くまモン」というキャラクターを皆さんの希望の灯火にしように考えました。くまモン募金というものを作って、直接熊本役に立つような使い方をしたいと思いました。考えていく中でやっぱりこれは子どもたちのために使う方がいいかなと。大きな保障するのは自治体や国がやるでしょうから。子どもたちが将来振り返ったときに、あの地震がきっかけでいるん



小山 香川さんと繋がっている方から連絡がありまして。「香川選手が熊本の子どもたちのために何かしたいと言っている」と話が入ってきたんですよね。そこで、何かやりたいなと。きっかけは香川選手が阪神淡路大震災のときに被災し

には進んでいると思いますし、強くなっただ人が多いんじゃないでしょうか。熊本への愛を改めて感じたりとか。僕自身も熊本城が壊れたときに、それまで熊本城ってのは自分にとってそんなに大切な場所だとは考えたことがありませんでした。当たり前ものとしか思っただけなんです。地震は熊本への愛を再確認す

るきっかけにはなりませんでしたね。故郷のために何か力になれることがあるかなと考えました。それまではそんなに郷土愛が強い方だとは思ってなかったんですが。
—— FOR KUMAMOTO PROJECT を設立されて復興支援をされていますが、設立の経緯をお教えてください。

なものが入り入れられたよね、というような。子どもたちの夢のケアができたらいいと思ったことがきっかけで、「くまモン夢学校」を立ち上げました。
—— くまモン夢学校の初めての講師は、サッカー選手の香川真司さんでしたが、どういった経緯で講師を引き受けてくださったのでしょうか？

小山薫堂

インタビュー



地震をきっかけに
どれだけ夢や価値が
生まれたかを発信でき
たらと思います

2016 (平成28) 年4月14日と16日の二度、震度7の地震が熊本県を襲った。この春で震災から3年が経つが、今もお仮設住宅には1万8千人以上 (平成31年2月末現在) の人が暮らしている。熊本城も大きな被害を受け、城が崩れていく姿に言葉を失った人も多かったろう。小山薫堂もその一人。被災した熊本城を見て、郷土愛に気付かされたという。傷ついた熊本の子どもたちを笑顔に変える、彼の取り組みについて話を聞いた。

—— 4月16日で地震から3年が経ちますが、振り返っていかがですか？

小山 そうですね、あつという間でした。まさか熊本が被災地になるとは思っただけだったんですよ。あのときはあまりの衝撃にあたふたした人が多かったと思うんですが、熊本には非常に前向きに考える人が多いのか、復興に対してポジティブな人が多かったですね。『くまモンあのね』って本を作ったときに、「助けて」

と言う声より「自分は元気だ」とか「負けない」という声が目立ちました。3年経って、皆さん元気にはなってるけれども、まだまだ、現実では……。1番被害が大きかった益城町の町長さんとも先日話したんですが、元気になってはいるけれども、まだ被害がそのままのところもあると。1月にも和水町で地震が起きたんで、常に気を緩めることはできないな、という感じで皆さん過ごされてるんじゃないかと思えます。ただ、精神的(な復興)

—— 現在の復興状況を見てどう思われますか？

小山 東日本大震災に比べると、被害もそこまで大きくなかったですし。3年経って、皆さん元気にはなってるけれども、まだまだ、現実では……。1番被害が大きかった益城町の町長さんとも先日話したんですが、元気になってはいるけれども、まだ被害がそのままのところもあると。1月にも和水町で地震が起きたんで、常に気を緩めることはできないな、という感じで皆さん過ごされてるんじゃないかと思えます。ただ、精神的(な復興)

※『くまモンあのね』とは？

熊本地震発生直後からハッシュタグ「#くまモンあのね」を使ってTwitterに寄せられた熊本の人たちのメッセージをまとめた本。